

原鉄道模型博物館

鉄道発祥の地横浜に昨年7月10日、オープンした「原鉄道模型博物館」が人気を集めている。展示されている模型を手掛けたのは、芦屋市在住で、1919（大正8）年生まれ、93歳の原信太郎さん。世界的に知られる鉄道模型製作、収集家だ。細部にまでこだわった精巧な作品は、鉄道関連の貴重なコレクションや巨大ジオラマとともに、全国から訪れる鉄道ファンらを夢中にさせている。オープンから2カ月足らずで来館者が10万人を突破するなど、1年目にして横浜を代表するスポットの一つに。子供からお年寄りまで幅広い世代を引き付ける原模型。その魅力とは何なのか。展示品やエピソードを通して、「鉄道愛」にあふれる原さんの世界をのぞいてみた。



「まだ100両は作りたい」と原さん。自宅の「シャングリ・ラ博物館」はまさに夢のプライベート空間だ＝芦屋市内

原鉄道模型博物館は、JR横浜駅に近いみなとみらい21地区の一角に立つ横浜三井ビルディング（横浜市西区）の2階にある。延べ約1700平方メートル（展示面積約1200平方メートル）のフロアに、3つの展示室、2つのジオラマなどを設け、模型をはじめ、切符やプレートなど鉄道関連コレクションが並ぶ。館長は原さんだ。

運営する三井不動産によると、原さんが製作、収集した鉄道模型は約6000両にもものぼるといふ。博物館はここから借り受けた約2500両を所蔵。常時、約1000両を展示、走行させている。

全模型の把握に2カ月

原さんは同博物館に貸し出している以外の模型を、映画「失われた地平線」（米・1937年）に登場する理想郷にあやかって「シャングリ・ラ博物館」と名付けた自宅に置き、室内に敷き詰めたレール上を走らせたり、今でも改良を重ねたりしている。

そんなにも大切な愛車だが、今回の博物館のプロジェクトが動き出すまで、それらがいったい何両あるのか、原さん自身も正確には把握していなかったという。

館長補佐の針谷朱美さんによると、オープンに向けて準備に取り掛かった数年前、アルバイトらスタッフ約20人を連れて原邸を訪問。1両ずつ撮影した上、実物と照合するなどして型式を確認しながらデータベース化していったという。

「作業は2カ月に及び、整理した資料はバインダー20冊分にも上りました」と針谷さん。



館内では原さん宅の模型工房も再現。工具やパーツとともに、毎日欠かさず飲むという「コカ・コーラ」も



原さんが小学6年生で初めて手掛けた鉄道模型。今でもレールを走るバリバリの現役だ



鮮やかなブルーと5枚窓が印象的な阪神電車。関西を一人旅した原少年は、オリジナルティあふれた私鉄の形やカラーに惹かれたという



懐かしい神戸市電も

こうした創意工夫はその後の模型づくりでも一貫しており、文字通り原点といえる作品だ。博物館のマークにもこの第1号がデザインされている。

阪神電鉄が1921（大正10）年に導入、大阪・出入橋〜神戸・三宮を走った木造電車「311形313」も必見だ。色鮮やかなブルーの車体と当時流行していた前後面の5枚窓が丁寧に再現されている。小学生にして関西を一人旅した原さんが、関西の私鉄を目にしてその色や形に魅かれたことが、この模型作りのきっかけになったという。

鉄道ファン垂涎のお宝がいっぱい

鉄道博物館にふさわしい自動改札機風のゲートを通じて入館すると、原模型の代表作が並ぶ第一展示室へ。

まず目に飛び込んでくるのは白いボディの電気機関車。8000型と名付けられたこの模型は、原さんが小学6年生で作った記念すべき第1号だ。車輪とモーター、ナンバプレートは市販品を転用。家の屋根を修繕して余ったトタン板をもらって車体に、大型のパンタグラフは針金で自作したという。



テーマ別が並ぶ第二展示室。世界の、そして日本の鉄道史をたどることができる

ほかに美しい天井絵まで施した木造車両のオリエント急行も。

芦屋・原邸の「シャングリ・ラ博物館」を写した特大パネルが掲げられた第二展示室では、「語る模型」と題して、「昭和の蒸気機関車」や「私鉄百花繚乱」、「各国旅列車」などテーマごとに模型を展示。鉄道を通じて歴史や当時の文化をうかがい知ることができ

構成した。「トロリーポール物語」のコーナーには、自動ドアや路面電車では初めて背もたれの向きを変えられるクロスシートを備えた、懐かしの神戸市電(70型)が置かれている。

ヴェインテージ・コレクションを紹介する第三展示室の目玉は、ドイツの老舗鉄道模型メーカーが1919年に製作したドイツ・ヴッツパートナー市の「懸垂電車」(モノレール)のアンティーク模型だ。世界で一つしか残っていない希少品で、原さんは国際電話でオークションに参加、落札したという。

ここではさらに、マニアならのどから手が出るほど欲しいという、鉄道開通時に発券される1枚目の切符「一番切符」コレクションの一部が見られる。

1964(昭和39)年の東海道新幹線の開通

の際、9日前から工事中的の大阪駅構内に寝泊まりして当日売りの新大阪発「ひかり2号」を、その途中に東京へ行き前売りされた東京発「ひかり1号」と、両起点の1番切符を入手したことなどが紹介されている。海外出張中の原さんに代わり、妻の美津子さんが何日も並んで一番切符を入手したという感動秘話も。

夫人の一言で博物館実現

世界中の鉄道ファンから長年、リスペクトされ続けてきた原模型。自宅の「シャングリ・ラ博物館」はあくまでもプライベートで、非公開だったため、原さんの元には以前から日本だけでなく、各国から常設展示、一般公開を求めるオファーが数多く寄せられていた。

しかし、「いつまでも手元に置いて、走らせない。飾っておくだけでは模型がかわいそう」となかなか首をたてに振らなかったという。そんな原さんを翻意させたのが、妻美津子さんの一言だった。「あなたの作った模型は素晴らしいものなのだから、皆さんに見ていただくようにしてないと」。この説得に原さんも「鉄道発祥の地横浜なら」と鉄道模型博物館の開設を承諾したという。

ジオラマの駅舎はパリ・リオン駅がモデルという



本物にこだわった巨大ジオラマ

オープン前から話題沸騰だったのが、世界最大級とされる巨大ジオラマ「いちばんテツモパーク」(約30坪×約10坪)だ。原さんのアイデアに基づいて、鉄道模型の老舗「天賞堂」(東京都中央区)が設計、施工を担当。約半年かけて完成させた。

1周約70坪で、レール総延長は約450坪に及ぶ。ここを走るのは、レール幅45ミリ、縮尺30(1/32)分の1という鉄道模型では最も大きい1番ゲージ。パリ・リオン駅をモデルにした駅舎をはじめ、ヨーロッパ風にデザインされた街並みを、外国の機関車、電車のほか、日本の路面電車なども走り抜けていく。

本物を忠実に再現する原さんの模型。最大の特徴は、レール、車輪とも鉄製で、電気をレールか

【原信太郎氏 プロフィール】

1919（大正8）年4月4日、東京・芝生まれ。生家が旧品川操車場に近かったことなどが、鉄道好きになったきっかけという。

鉄道技術を学びたいと東京工業大学に進学。戦後、文具・オフィス用品メーカーのコクヨに入社、仕事のため関西に転居する。会社では開発技術担当として、世界初の立体自動倉庫などを手掛けた。同社専務などを経て退職後、研究者支援を目的に財団法人原総合知的通信システム基金を創立。現在、同財団理事長。模型作りのため、訪れた国は延べ380カ国。模型収集のほか、製作の資料となる鉄道写真や映像を撮影して回る。海外の関連書籍や模型カタログを読むため、英語、仏語、独語など複数の言語を習得した。

コーラが大好きで今も毎日、愛飲しているという。

「まだ100両は作りたい」と模型作りへの意欲はいまだ衰えていない。

二男一女。長男丈人氏、次男健人氏はいずれも同博物館の副館長。



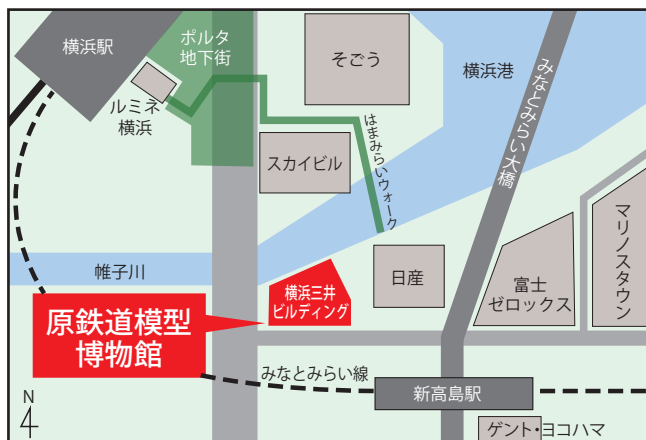
来館者を夢中にさせる世界最大級のジオラマ「いちばんテツモパーク」。鉄道模型とともに細かく作り込まれた街並みのリアルさに驚かされる

らではなく、架線からパンタグラフで取り込んでいる点だ。このジオラマのレールは、本物の鉄道レールを作るメーカーに特注した。模型が走ると「ガタン、ゴトン、ガタン、ゴトン」という音が聞こえてくる。

こうした模型に合わせ、情景もリアルさを追求した。鉄橋の下を流れる川、沿線道路を走る車、断崖絶壁を上る山羊の群れ……。ジオラマのこだわりを見つけるのも楽しみの一つになるに違いない。ジオラマを囲む柵は、人がもたれて顔を乗せると、ちょうど目線と走行する鉄道がほぼ同じ高さになるよう設定。全体を見渡す「見晴し台」も設けられている。また、ロープウエーの模型には小型カメラを搭載し、ジオラマの俯瞰映像をモニ



昨年未まで博物館の広報を担当していた三井不動産の阿部香さん。後任の担当者とともに神戸っ子だ



《利用案内》

入館料：大人1000円、中高生700円、4歳以上500円
 営業時間：11～18時（最終入場は17時30分）
 休館日：火曜日（祝日の場合は翌営業日）と年末年始
 問い合わせ先：☎045・640・6699

ターに映し出す心憎い仕掛けも。細部まで目を凝らして見てもらおうと、無料のオペラグラスまで用意されている。

隣にある、横浜の今昔を再現したHOGEEジ（レール幅16・5ミ、縮尺80分の1）のジオラマとともに、来館者を奥深い鉄道模型の世界へと誘ってくれそうだ。

（神戸新聞東京支社編集部長 志賀俊彦）

◆参考資料◆

- ・「原模型こだわり入門 原鉄道模型博物館がもっと面白くなる」（シヤングリラ・レール）
- ・DVD「シヤングリラの夢 原信太郎が描き続ける理想郷」（TCエンタテインメント）